

## 第 24 回佐久新校再編実施計画懇話会

日時：令和 7 年 1 月 10 日（金）  
午後 6 時から午後 7 時  
会場：オンライン開催

<次 第>

1 開 会

2 挨拶

3 会議事項

(1) 第 23 回佐久新校再編実施計画懇話会まとめについて

(2) 施設配置について意見交換

4 その他

第 25 回佐久新校再編実施計画懇話会について

【日時】令和 7 年 3 月の実施で調整

【会場】現在調整中

5 閉 会

## 新校再編実施計画懇話会開催要綱

### (目的)

第1 県教育委員会が、統合新校ごとの再編実施計画を策定するにあたり、再編対象校に加えて、対象校が所在する地域の意見を聴くため、「新校再編実施計画懇話会」(以下、「懇話会」という。)を開催する。

なお、懇話会は、地方自治法第138条の4第3項の規定に基づき、法律又は条例により設置された附属機関ではないものとする。

### (会議事項)

第2 懇話会は、次の事項について意見交換を行う。

- (1) 学校像、教育方針等に関すること
- (2) 校地・施設・設備等に関すること
- (3) 管理運営等に関すること
- (4) 教育内容等に関すること
- (5) その他、県教育委員会が必要と認める事項に関すること

### (構成員)

第3 懇話会の構成員は、統合対象校の学校関係者(校長、教職員等)、地域の代表(自治体関係者、産業界の代表等)、同窓会、PTA、生徒の代表等とし、必要に応じ、県教育委員会が依頼する。

2 会議に座長を置く。

### (開催期間)

第4 会議は統合新校が開校するまでの間、開催するものとする。

### 附 則

この要綱は、令和2年10月26日から施行する。

佐久新校再編実施計画懇話会 構成員名簿

	区分	氏名	所属等
1	自治体	畠山 啓二	佐久市 副市長
2		吉岡 道明	佐久市教育委員会 教育長
3		油井 敏弘	南佐久郡町村教育委員会連絡協議会 会長
4	産業界	坂川 和志	佐久商工会議所 副会頭
5		渡辺 仁	佐久総合病院 統括院長
6		白鳥 敬日瑚	マイクロストーン株式会社 代表取締役社長
7	学識 経験者	坂江 千寿子	佐久大学 学長
8	地域	廣末 恵子	社会医療法人恵仁会 医師
9		原 啓明	佐久地域振興局 局長
10	同窓会	吉岡 徹	野沢北高等学校同窓会 会長
11		長田 芳子	野沢南高等学校同窓会 会長
12	PTA	片桐 美和子	野沢北高等学校PTA 会長
13		掛川 勉	野沢南高等学校PTA 会長
14		竹内 由貴	全佐久PTA連合会 会長
15	学校 関係者	小林 秀樹	佐久中学校長会 会長
16		高橋 幸彦	佐久小学校長会 会長
17	再編 対象校	永井 柊	野沢北高等学校 生徒会長
18		相澤 寛公朗	野沢北高等学校 生徒会副会長
19		岩下 ことい	野沢北高等学校 生徒会副会長
20		土屋 夢萌	野沢南高等学校 生徒会長
21		塩川 那美	野沢南高等学校 生徒会副会長
22		月岡 宏人	野沢南高等学校 生徒会副会長
23		柳沢 敬	野沢北高等学校 校長
24		山下 純一	野沢北高等学校 教諭
25		中村 信秋	野沢南高等学校 校長
26		臼田 賢治	野沢南高等学校 教諭

事務局

野沢北高等学校		野沢南高等学校		高校再編推進室	
田中 聡	(教頭)・事務局長	橋爪 俊彦	(全・教頭)・副事務局長	井出 敦	主幹指導主事
山下 純一		清水 徹	(定・教頭)	土橋 邦彦	主任指導主事 (佐久新校担当)
澤田 浩文		臼田 賢治		有坂 清明	主任指導主事 (佐久新校副担当)
赤羽根 弦		林 直孝			
清水 貴弘		成田 明			
		山口 達之			

## 第 23 回 佐久新校再編実施計画懇話会まとめ(案)

日時	令和 6 年 (2024 年) 12 月 16 日 (月) 18 時 00 分～19 時 40 分
場所	長野県佐久合同庁舎 講堂
出席 (敬称略)	吉岡道明、油井敏弘、坂川和志、渡辺仁、坂江千寿子、廣末恵子、原啓明、吉岡徹、長田芳子、片桐美和子、竹内由貴、永井柊、相沢寛公朗、岩下ことい、土屋夢萌、塩川那美、月岡宏人、柳沢敬、山下純一、中村信秋、臼田賢治 以上 21 名
傍聴者	23 名 (うちオンライン 3 名、報道なし)
事務局	野 沢 北 高 校 : 田中教頭 (事務局長)、澤田教諭、赤羽根教諭、清水教諭 野 沢 南 高 校 : 橋爪教頭 (副事務局長)、清水教頭、林教諭、成田教諭、山口教諭 県教育委員会 : 佐野室長、井出主幹指導主事、土橋主任指導主事
当日資料	次第、第 22 回懇話会まとめ、統合の方法について、施設配置について、施設整備基本計画決定までの流れ、新校へ繋げる探究の学びについて

### 会議事項

- (1) 第 22 回佐久新校再編実施計画懇話会まとめ
- (2) 施設配置について
- (3) 新校へ繋げる探究の学びについて
- (4) 意見交換

### 主な内容(要旨)

#### (1) 第 22 回佐久新校再編実施計画懇話会まとめ

資料 2～3 ページについて事務局から説明。質疑、意見なし。

高校再編推進室から資料の記載内容について訂正。

資料 3 ページ 11 行目

(訂正前) : 例えば、新校開校 2 年前から部活動では合同チームの出場が可能である。

(訂正後) : 例えば、年次統合の場合、新校開校時から部活動では合同チームの出場が可能である。

#### (2) 施設配置について

高校再編推進室から以下、3 点について報告。

○県は、校地拡幅場所について、現校地西側、国道 141 号線に接続する水田 3 枚の内、北側 2 枚とした。

○両校で新校のプールの取扱いについて検討した結果、現在の野沢北高校のプールは除却する。

○活用できるものは活用していくというコンセプトのもと、大体育館、特別教室棟、音楽室棟は引き続き活用していく。

設計チームから施設配置案について説明。

○検討条件として校地拡幅とプールの除却を追加し再検討した。

○まず校地拡幅部に建物を建てるか検討したが、校地内の移動に時間がかかる点、移動する際に市道を横断することから安全性に欠ける点、建物を建てるための手続きに時間を要し、開校時に間に合わない点等の観点から、拡幅部分には建物は建てず、駐車場とハンドボールコート設置を考えた。

○A 案・B 案の大きな違いは、先に建設できる建物の違い。具体的には、A 案は管理部門、B 案は小体育館。要するに、学校機能を先行させるか、体育施設を先行させるかということになる。

○歩車分離について、駐車場は校地拡幅部分を使用する。車を降りた生徒や外来者は、そこから校舎へアクセスしやすいように西門を整備し、グラウンド内脇に通路を確保する。自転車は東門、北門から駐輪場へ入り、そこから歩いて校舎や部室へ行く。業者や運送会社の車等は南西部の門から入る。それぞれの動線を分けることで安全が確保できる。

○一足制 (上履き廃止) を検討している。大学と同じイメージ。単位制により校舎内の移動が多くなることや、学びによっては校舎内外を行き来して取り組む機会があり、その際もスムーズに移動できる。また、昇降口のスペースを他の学びのスペースとして活用することができる。

【質疑・意見】 →設計チーム回答

・西側に校地が拡幅したことで、動線の分離が確保でき、また、ゆったりとした校舎配置になった。

・新校校舎の正面 (顔) はどこになるのか。

→新校校舎には3つの顔があると考えている。1つ目がエントランスひろば、2つ目が地域のひろば、そして3つ目が両方の広場をつなぐ県道に面した校舎。

- ・A案が良い。A案は歩車について完全分離ができそうで安心。先行して管理部門ができるのも良い。また、体育施設がまとまっていた方が活動しやすい。
- ・校地拡幅によりゆとりのある校舎配置となった。小体育館がない期間があり生徒は苦勞を強いられるが、長い目で見ると管理部門が先行して整備できるA案が良いと思う。
- ・班活のひろばに屋根はあるのか。  
→屋根は考えていない。部室周りは屋根がある通路を想定している。
- ・A案では保健室が体育館から離れているため動線を確認した方が良い。保健室が体育施設に近いことから、B案が良いと思う。
- ・弓道場が老朽化しているため、改修等を検討してほしい。
- ・大体育館や小体育館など体育施設はまとまっていた方が活用しやすい。西側拡幅部に駐車場があるため、慣れてくるとグラウンドを横切る生徒が出てくる心配はある。
- ・グラウンド西側に通路が確保できればグラウンド横断は解決できると思う。  
→舗装した通路を検討していきたい。
- ・班活のひろばではどんな活動を想定しているか。  
→班活のひろばはかなりの広さを確保できる。ミーティングや班活前のアップなど使い方について皆さんと相談しながら検討していきたい。
- ・A案が良いと思う。この校舎配置を考えてくれた設計チームに感心している。
- ・軽音部の部員が多いが活動場所はあるのか。  
→室内の練習場となると照明や空調が必要となる。音への対策は必要になるが、半屋外の活動場所等検討していけると良い。
- ・大きなケガ等緊急事態の時に保健室や管理棟が大きな道路に近い方が対応できる。A案が良いと考える。

#### ※高校再編推進室から施設整備基本計画決定の流れについて説明

- 西側拡幅部駐車場への自動車の動線についても、今後検討していく必要がある。
  - 本日出た意見を含め県教育委員会で校舎配置を検討し、決定する。
  - 次回懇話会を令和7年1月10日（金）に開催予定。ここで校舎配置を示す。
  - 具体的な諸室の数や配置等については、これまでに開催したワークショップの意見を含め、両校生徒、職員、設計チーム、県教育委員会を中心に検討を進める。
  - 令和7年3月に懇話会を開催し、その時点での施設整備基本計画を示し意見を求める。
  - 令和7年4月に懇話会を開催し、施設整備基本計画の最終案を示す。
- 質疑・意見なし。

#### (3) 新校へ繋げる探究の学びについて

野沢北高校・野沢南高校両校校長から、現在の両校の学びがどのように展開され、そして新校へ引き継がれていくかについてプレゼンテーションを実施。

時間の都合上、質疑・意見の時間は割愛し、次回以降伺う。

## その他

### 【次回】第24回懇話会

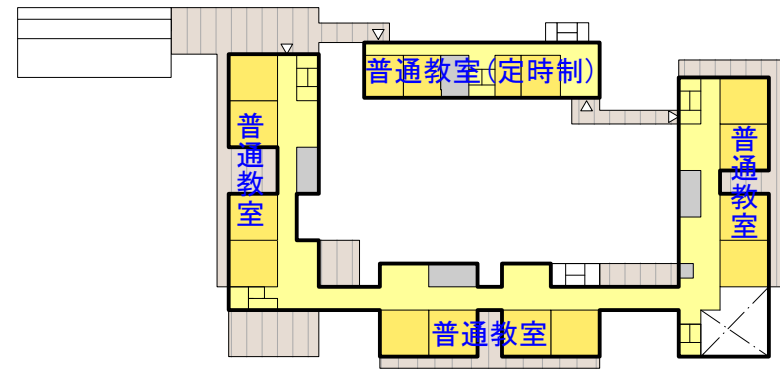
日程：令和7年1月10日（金）

会場：オンライン開催を含め検討中

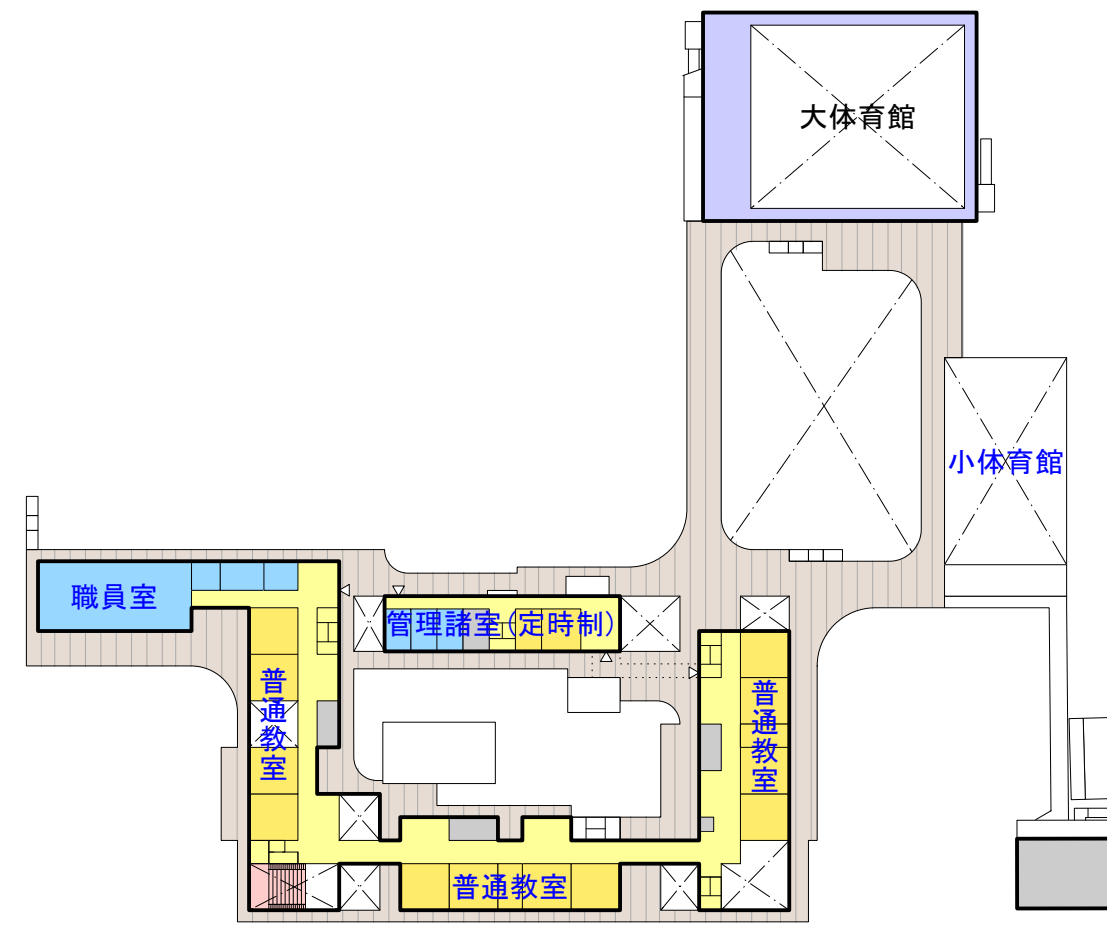
# A案



1階平面図



3階平面図



2階平面図

凡例

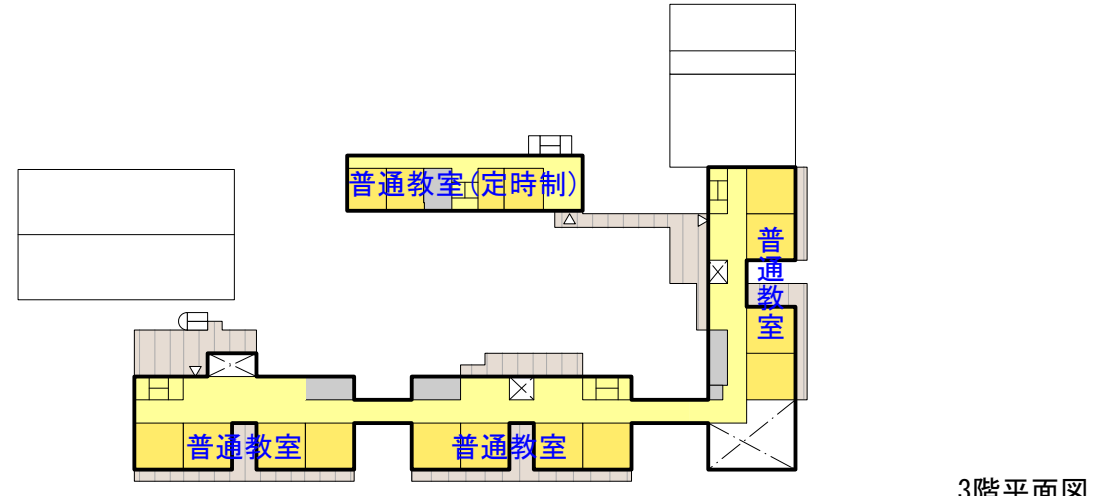
黒字：既存	■：管理	■：普通教室
青字：新築	■：特別教室	■：地域連携
	■：図書・メディア	■：体育施設・部室

▲：主たる出入口（室外側から施開錠可能）  
 △：出入口（室内側からのみ施開錠可能）

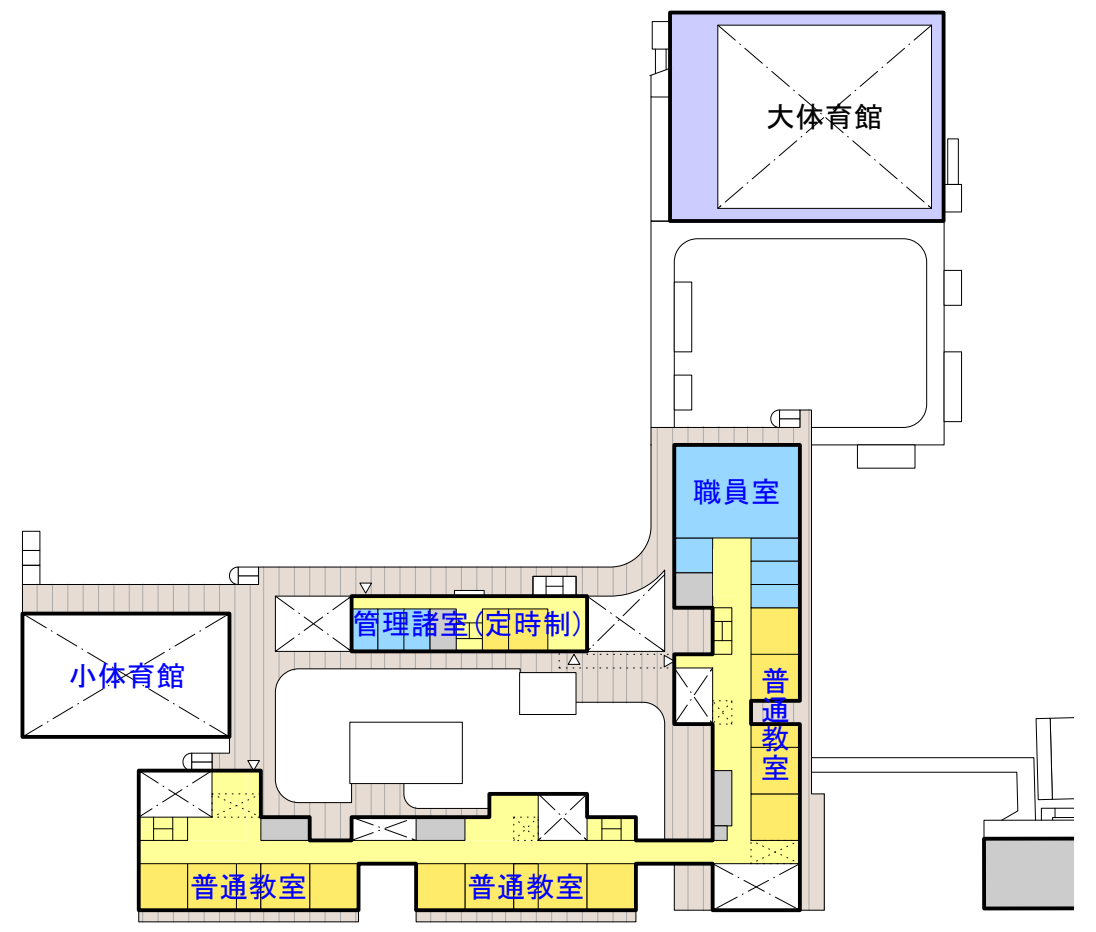
# B案



1階平面図



3階平面図



2階平面図

凡例

黒字：既存	■：管理	■：普通教室
青字：新築	■：特別教室	■：地域連携
	■：図書・メディア	■：体育施設・部室

▲：主たる出入口（室外側から施開錠可能）  
 △：出入口（室内側からのみ施開錠可能）



探究学習や地域連携に関わる方がWSに参加、地域の方も傍聴



地域と連携した探究学習について話し合うWSを実施

## ○参加者：

- ・ 探究学習や地域連携に関わるみなさん
- ・ 野沢北高校・野沢南高校同窓会のみなさん
- ・ 長野県教育委員会
- +設計JVチーム（ファシリテーター） 合計42名

2024年3月16日、佐久合同庁舎講堂にて、佐久新校の基本計画策定に向けた第2回目となるワークショップを開催いたしました。今回は、探究学習や地域連携に関わる方々にお集まりいただき、北高・南高の探究学習の内容や地域連携空間の先進事例を紹介し、その後4つのグループに分かれて新校での「地域と連携した探究学習」をテーマとしたグループディスカッションを実施しました。

年度末の忙しい時期にもかかわらず、約30名の方々にご参加いただき、活発な意見交換と情報共有がなされました。また、地域の方々にも会場でワークショップの様子をご覧いただきました。

## ●ワークショップの概要と目的

- 北高・南高の探究学習実施状況紹介：
  - ・ 各校の探究学習の目的や内容について、現状の課題やこれから取り組んでみたいことを知り、今後の関わり方を考える
- 地域連携の先進事例紹介：
  - ・ 新校での地域と連携した探究学習についてイメージを膨らませるために、どんな関わり方や在り方があるかを知る
- 地域と連携した探究学習についての意見交換：
  - ・ 佐久新校で地域と連携した学びを実現するために「探究学習」に着目し、佐久地域ならではのテーマや学校と地域の関わり方についてアイデアを出し合い、今後の佐久新校施設計画の検討に活かす



## ●当日の流れ

### 1. 開催の挨拶・計画案の概要説明

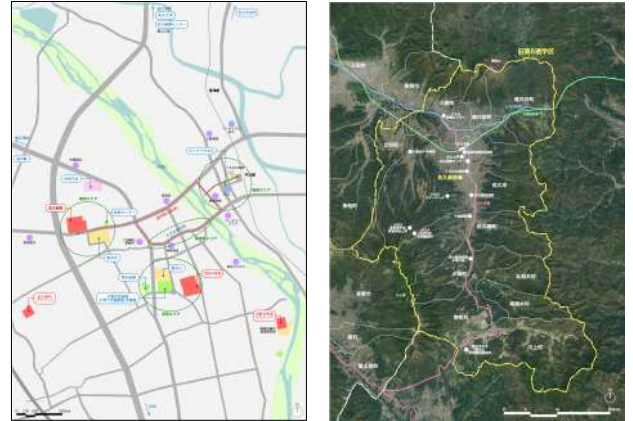
- ・長野県教育委員会より、NSDプロジェクトの概要や理念、佐久新校の概要を説明し、設計チームより、プロポーザル時の計画案、学校や県との打合せを経て現在検討している配置計画案について説明しました。
- ・ご覧いただいた地域の方からの意見を伺うため、アンケート（WEBと紙面）の記入方法について説明しました。



両校の担当教員より探究学習の紹介

### 2. 先進事例の紹介

- ・新校の施設整備における、建築計画アドバイザーである伊藤俊介先生（東京電機大学教授）より、学校施設における地域連携や地域共創に関する先進事例を紹介しました。
- ・「見せる」「居る」「関わる」をキーワードに、国内外の学校事例から、探究プロセスや成果の見せ方、生徒の居場所、地域と学校との接点のつくり方やそのための空間についてレクチャーしていただきました。



関連施設が記載された新校の周辺や旧第6通学区のマップを用意

### 3. 各校の探究学習実施状況の紹介

- ・野沢北高校は神岡先生、野沢南高校は渡邊先生より、各校で行われている探究学習の実施状況を紹介いただきました。
- ・北高では連携企業とのワークショップで地域課題や企業課題を見つけ探究に取り組むこと、南高では自由テーマのもと最大1年半かけて探究に取り組むことがわかりました。



活発な意見交換

### 4. グループディスカッションの実施

#### 4-1. ディスカッションのテーマと方法

- ・参加者をA班～D班の4グループに分け、地域連携・探究学習に関する以下のテーマについてグループディスカッションを行いました。

- テーマ①：地域と連携した探究学習とは
- テーマ②：地域と連携した探究学習にふさわしい空間とは
- テーマ③：佐久らしい、佐久ならではの地域連携・探究学習とは

- ・各テーマについて、「今まで」と「これから」の視点から、現状の取り組みや課題、新校でのアイデアなどを話し合い、新校における地域連携・探究学習の在り方や空間について議論を深めました。



配置図でも説明しながら、テーマに沿って考える

#### 4-2. 成果の発表・共有

- ・各グループで出された意見を取りまとめ、グループ代表者が発表し、参加者全員で意見を共有しました。グループごとに独自の意見やアイデアも多く発表され、互いに新たな気づきを得ることができました。
- ・会場からもアンケートを集め、「下足のまま校舎に入るとよい」などの意見が寄せられました。



WEBに寄せられた会場からの意見をスクリーンで共有

## ●グループディスカッションでの各班の意見（抜粋）

### ○A班

#### [地域と連携した探究学習とは]

- ・ 探究サポーターとして空き家問題をテーマとして扱った
- ・ 具体的な課題を地域から提示したらどうか

#### [地域と連携した探究学習にふさわしい空間とは]

- ・ 地域の人とのコミュニティの場所として開放したい
- ・ 校舎を作り込みすぎず、生徒みんなで使い方を考えるのがよいのではないか
- ・ 学校だけでなく連携企業にも探究の部屋があったらよい

#### [佐久らしい、佐久ならではの地域連携・探究学習とは]

- ・ 「宇宙」や「医療」などのテーマは生徒全員で取り組むのはどうか、地域課題を扱う授業も考えている
- ・ 南佐久のキーワードとして「水」資源がある。地域のテーマになるかも

### ○B班

#### [地域と連携した探究学習とは]

- ・ 地域連携をするために、地域の人や地域の人材を知る必要があるのでは
- ・ 地域の高度な技術や知的財産の活用

#### [地域と連携した探究学習にふさわしい空間とは]

- ・ 生徒の探究学習の成果物や制作風景が見られるとよい
- ・ 番組制作ができるスタジオ、動画編集室を設けるとよい

#### [佐久らしい、佐久ならではの地域連携・探究学習とは]

- ・ 地元企業と協働でイルミネーションの制作をしている
- ・ 佐久の自然や災害、地形の特色や歴史について
- ・ 中込のグリーンモールで実施している社会実験やワーキングスペースなど、地域で行われているさまざまな取り組みや場所、人との連携

### ○C班

#### [地域と連携した探究学習とは]

- ・ 地域の人材のデータベースを作ったら連携しやすい
- ・ 地域の人が学び直しできる機会になってもよい

#### [地域と連携した探究学習にふさわしい空間とは]

- ・ 地域連携協働室はリモートワークしている人の居場所になるとよい
- ・ 校内に入って良い人なのか判断するセキュリティが必要
- ・ PJルームは可動間仕切りを入れて、拡張性や汎用性のある空間にしたい

#### [佐久らしい、佐久ならではの地域連携・探究学習とは]

- ・ 佐久市発行の「佐久の先人」と連携して、地域を知る機会を作っている
- ・ 地域連携により佐久の豊かな自然を残していきたい

### ○D班

#### [地域と連携した探究学習とは]

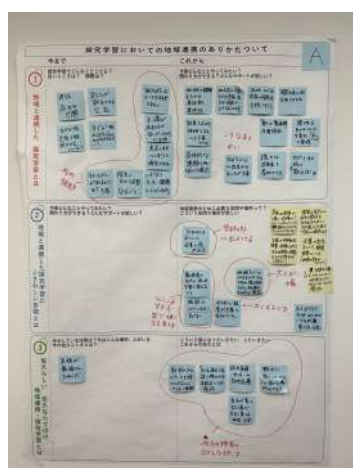
- ・ 現状、アポイントや場所の確保・調整が難しいので、もっと気軽に活動したい
- ・ 地域の人材の認知度が低いので参加しやすい工夫がほしい
- ・ 進級や進学しても、中期、長期的に共同研究がしたい

#### [地域と連携した探究学習にふさわしい空間とは]

- ・ 探究学習で学んだことを大学に繋げていくための進路指導もできる空間がほしい
- ・ 中学生が来たり、中学生に活動が見える空間がほしい

#### [佐久らしい、佐久ならではの地域連携・探究学習とは]

- ・ 佐久の特産物、歴史、料理を知る講師がいてほしい
- ・ 地域コーディネーター同士が連携できる、ネットワークを構築したい



A班



B班



C班



D班

### ●総評・まとめ（ファシリテーター：ガド建築設計事務所 新井晃より）

今回の地域ワークショップでは、年齢や職業、さまざまな立場の皆様と新校での探究学習、そのための空間の在り方、佐久らしい学びについて議論し、意見を共有しました。探究の学びにおいて地域の協力と連携は不可欠です。学びのソフト、ハードの両面から活発な意見交換がなされたことは、佐久新校に対する熱い思いや期待、希望の表れだと強く感じます。人にも場所にも恵まれた佐久地域でこそできる「学び」と「空間」とはどうあるべきか、参加された一人ひとりが改めて考え直す機会になったのではないのでしょうか。